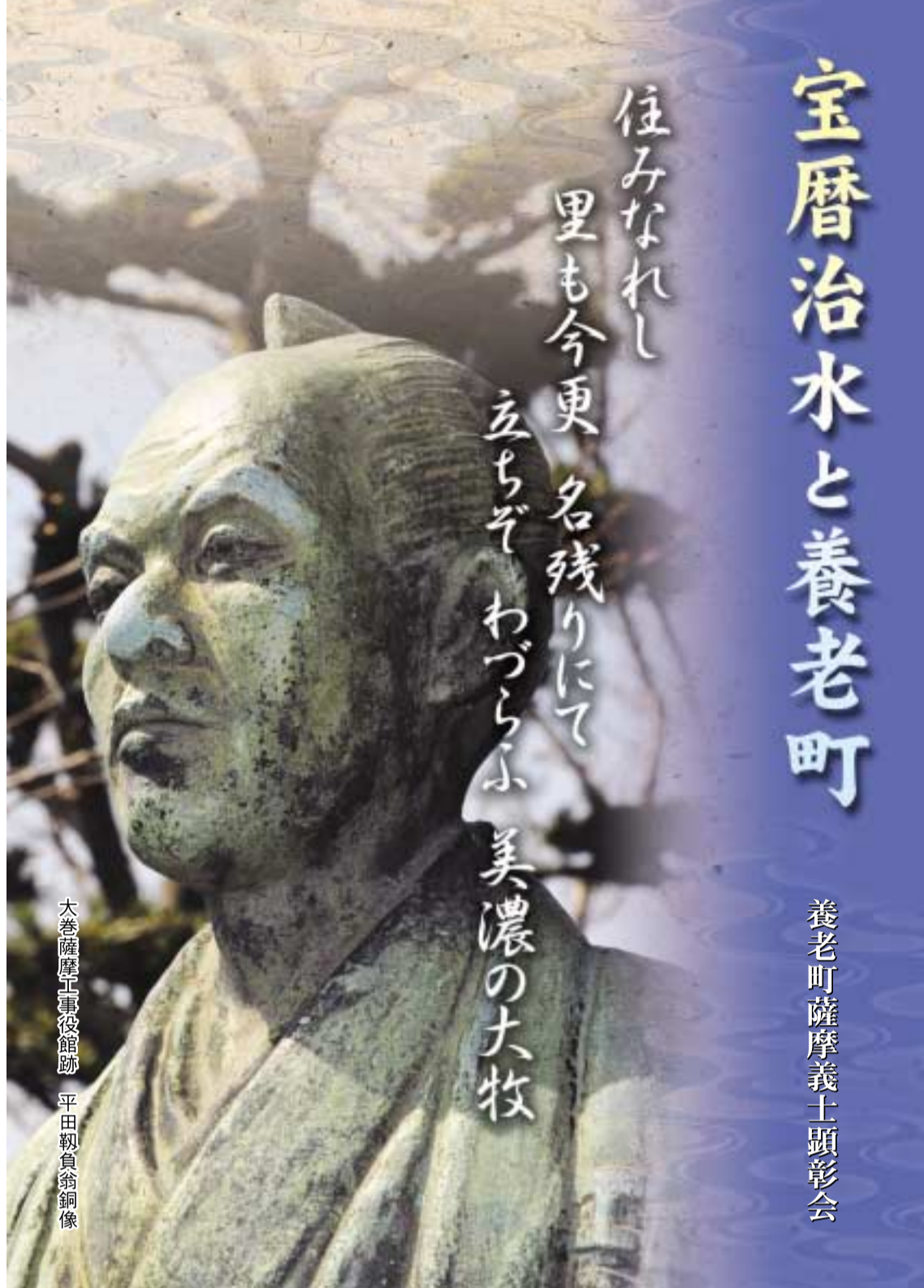


# 宝暦治水と養老町

養老町薩摩義士顕彰会

住みなれし  
里も今更 名残りにて  
立ちぞ わづらふ 美濃の大牧



大巻薩摩工役館跡 平田勲負翁銅像

## 養老町の宝暦治水関係史跡等 案内図



養老町を含む木曾三川流域の輪中地帯の歴史は、水害の歴史であり、水害がおきるたびに田畑はもろん、家も流され、家族の誰かが溺れて亡くなっていました。人々はこも度重なる水害に対応するため、村を輪中堤で囲むなど個別に対策をとる一方、水害の大きな原因となっていた木曾三川合流という問題を解決することを悲願としてきました。

木曾三川は当時伊勢湾の上流14kmのところで合流していましたが、三川それぞれの川底の高低は同じではなく、木曾川・長良川・揖斐川の順に低くなっていったため、水が増え旧工事を中心として行い、第2期工事では三川とその支流において川分堤・洗堰・締切堤・掘削等の難工事が中心でした。油島締切堤と大樽川洗堰もこの第2期工事を実施されています。

宝暦5年(西暦1755年)3月21日に工事は完了しますが、薩摩藩は、この間に約40万両という工費を支出し、薩摩藩士に53名の自刃者と33名の病死者を出しました。当時の薩摩藩の全体の借入金金が66万両であったことを思えば、いかにこの宝暦治水工事が難工事であり、また幕府と薩摩藩の複雑な対立関係や地元役人との対立が薩摩藩士を死に追いやったかを伺うことができます。

総奉行を務めた平田勲負公は工事の完了を薩摩藩に報告した後、養老町大巻において工事の本部(大巻薩摩工役館跡)において、住みなれし 里も今更名残りにて立ちぞ わづらふ 美濃の大牧の辞世を残し、悲壮な最期を遂げました。享年52歳でした。

後世、これらの薩摩藩の宝暦治水工事の犠牲者の義拳を讃え、平田勲負翁以下の薩摩藩士達は「薩摩義士」と呼ばれるようになり、現在にもその功績が伝えられています。

養老町を含む木曾三川流域の輪中地帯の歴史は、水害の歴史であり、水害がおきるたびに田畑はもろん、家も流され、家族の誰かが溺れて亡くなっていました。人々はこも度重なる水害に対応するため、村を輪中堤で囲むなど個別に対策をとる一方、水害の大きな原因となっていた木曾三川合流という問題を解決することを悲願としてきました。

木曾三川は当時伊勢湾の上流14kmのところで合流していましたが、三川それぞれの川底の高低は同じではなく、木曾川・長良川・揖斐川の順に低くなっていったため、水が増え旧工事を中心として行い、第2期工事では三川とその支流において川分堤・洗堰・締切堤・掘削等の難工事が中心でした。油島締切堤と大樽川洗堰もこの第2期工事を実施されています。

宝暦5年(西暦1755年)3月21日に工事は完了しますが、薩摩藩は、この間に約40万両という工費を支出し、薩摩藩士に53名の自刃者と33名の病死者を出しました。当時の薩摩藩の全体の借入金金が66万両であったことを思えば、いかにこの宝暦治水工事が難工事であり、また幕府と薩摩藩の複雑な対立関係や地元役人との対立が薩摩藩士を死に追いやったかを伺うことができます。

総奉行を務めた平田勲負公は工事の完了を薩摩藩に報告した後、養老町大巻において工事の本部(大巻薩摩工役館跡)において、住みなれし 里も今更名残りにて立ちぞ わづらふ 美濃の大牧の辞世を残し、悲壮な最期を遂げました。享年52歳でした。

後世、これらの薩摩藩の宝暦治水工事の犠牲者の義拳を讃え、平田勲負翁以下の薩摩藩士達は「薩摩義士」と呼ばれるようになり、現在にもその功績が伝えられています。

## 薩摩義士と宝暦治水

天照寺の境内に所在しており、岐阜県の史跡に指定されている。宝暦治水工事で亡くなった義士の3名が埋葬されており、それが墓石もついている。

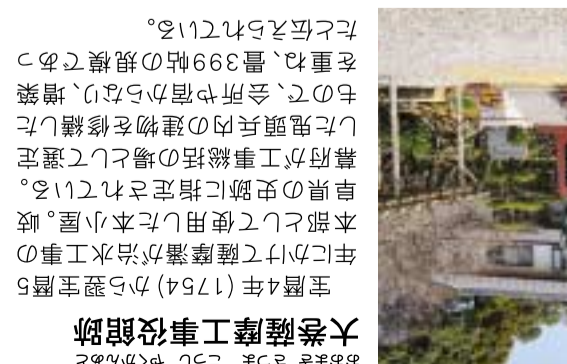


天照寺薩摩工役館跡



根古地薩摩工役館跡

地元では浄土三昧とも呼ばれており、宝暦の治水工事で亡くなった24名の薩摩義士が埋葬されている。昭和35年6月12日、排水路の改修工事に伴って発掘が行われており、遺骨を納めた7個の甕が確認された。このときの遺骨は墓碑の両端に再度埋葬され、遺骨が納められていた甕のうち1個は現在天照寺に保管されている。この発見を契機に慰霊堂が建てられた。



大巻薩摩工役館跡

幕府の代官吉田久左衛門、木曾・長良・揖斐三川の調査

宝暦4年1月16日 (1754) 家老平田鞆負が工事総奉行に、大目付伊集院十蔵が副奉行に任命される

宝暦5年3月27日 (1755)

平田鞆負翁画像

法名

死亡年月日

俗名

法名	死亡年月日	俗名
	宝暦4年 6月27日	新右衛門
	宝暦4年 7月13日	六平
	宝暦4年 7月21日	助次郎
	宝暦4年 8月4日	新右衛門
	宝暦4年 8月15日	利右衛門
	宝暦4年 8月18日	川合瀬兵衛
	宝暦4年 8月18日	権右衛門
	宝暦4年 8月18日	喜右衛門
	宝暦4年 8月25日	長左衛門
	宝暦4年 9月6日	惣左衛門
	宝暦4年 9月13日	岩七
	宝暦4年 9月15日	深見助助
	宝暦4年 9月27日	六左衛門
	宝暦4年 9月27日	長八
	宝暦4年 10月17日	三四郎
	宝暦4年 10月23日	太田喜三右衛門
	宝暦4年 11月9日	仁八
	宝暦4年 11月21日	大灌十左衛門
	宝暦5年 1月12日	助四郎
	宝暦5年 2月9日	大橋七郎右衛門
	宝暦5年 2月12日	与八
	宝暦5年 2月13日	覚佐衛門
	宝暦5年 4月28日	市右衛門
	宝暦5年 5月8日	仁助

恢

・感信士

本倒還立信士

頂法灌受信士

玄入義門信士

節霜義端信士

灌山頂雪居士

正融義春信士

風外浄航信士

春到岸誓信士

陽観春察信士

報運順應信士

宝国諱林信士

薩摩義士を埋葬した甕(天照寺蔵)

薩摩義士の過去帳(天照寺蔵)